

[成果情報名] 西湖におけるクニマス生息数の動向

[要約]

平成 26 年秋ヒメマス釣り解禁期を基準とした西湖のクニマス生息数を推定した。平成 24 年秋から 3 年間の推定結果について、クニマスの漁獲状況及び産卵後親魚の採集状況を傍証として、クニマス生息数の現状について検討した。

[担当] 水技セ・青柳敏裕

[分類] 研究・参考

[課題の要請元] 西湖漁協、富士河口湖町、花き農水産課

[背景・ねらい]

これまでの調査からクニマスの生態、生息規模が明らかになりつつある。クニマスの保全を図るには、生息環境、特に産卵環境の保全や生息数の動向把握と評価が必要である。

そこで、クニマス生息数の動向についてモニタリング調査を実施した。

[成果の内容・特徴]

- 1 H26 秋のクニマス生息数は約 3,500 尾から約 4,300 尾と推定された (図 1)。
- 2 ヒメマス釣りの際に混獲されるクニマスの割合は 2.7~14%と年変動が大きく (図 2)、その比率はヒメマス釣果にも左右された (図 3)。
- 3 クニマスの 1 人 1 時間当たりの釣果は 0.1~0.4 尾で、過去 3 年で大きな変動はみられなかった (図 3)。
- 4 産卵後、湖岸に漂着した親魚の採集総数及び 1 回当たりの平均から、親魚の集団規模 (産卵数) に年変動がある可能性が考えられた (図 4)。

[成果の活用上の留意点]

クニマスの保全を図るため、今後もモニタリングを継続し、生息数の動向に注意を払う必要がある。

[期待される効果]

クニマスの生息数や生態及び生息環境の解明によるクニマス保全と漁業との共存

[具体的データ]

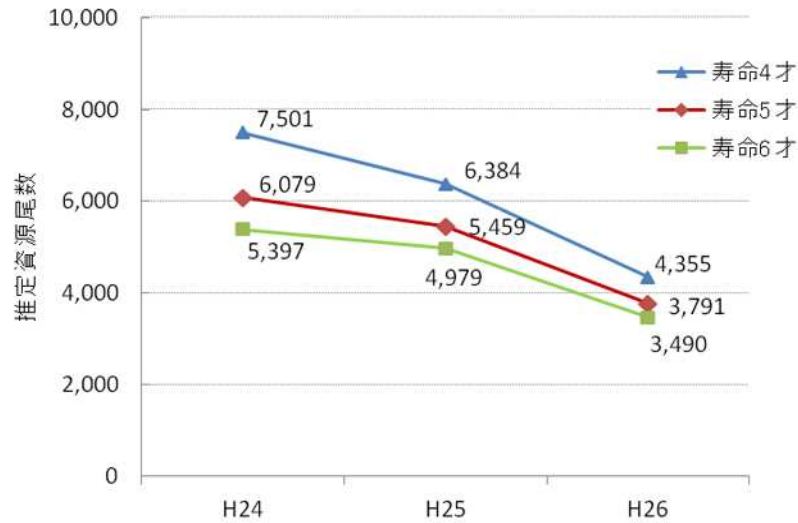


図1 クニマスの推定生息数

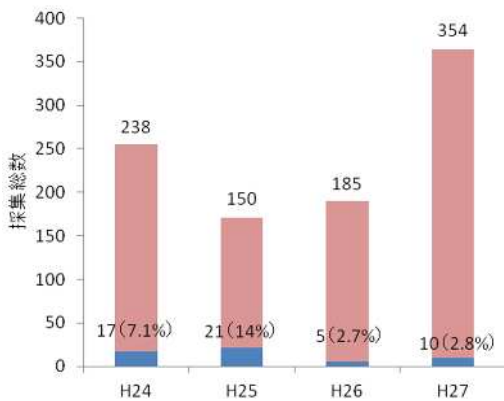


図2 ヒメマス釣りにおける混獲状況

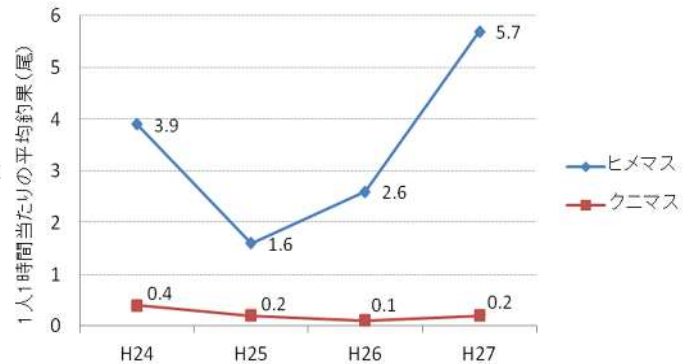


図3 クニマス、ヒメマスの平均釣果

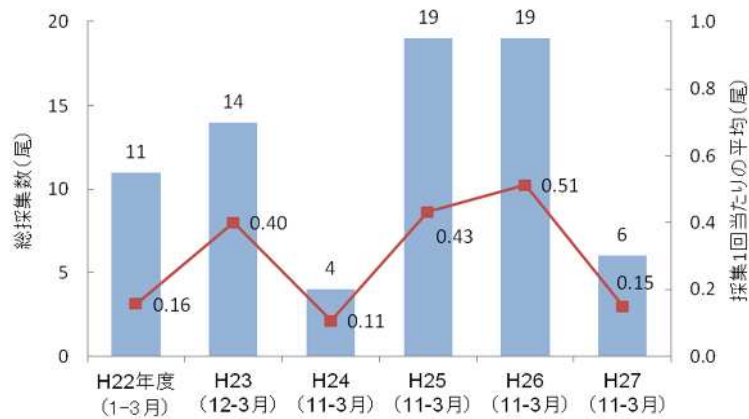


図4 産卵後のクニマスの年度別採集数 (括弧内は採集期間)

[その他]

研究課題名：クニマスの保全並びに活用に関する研究

予算区分：県単（総理研）

研究期間：平成27～29年度

研究担当者：青柳敏裕、小澤諒